

# Citizen activity information magazine

三浦市民生活向上会議会報

〒238-0102

神奈川県三浦市南下浦町菊名1258-3

三浦市総合福祉センター

電話 046-888-7347

発行：社会福祉法人三浦市社会福祉協議会

発行責任者：出口 道夫

# Vol.7

## 第一回活動評価促進部会開催

去る十月十八日、今年度第一回目となる三浦市民生活向上会議が開催されました。精力的に活動する「ボランティア活動促進部会」のこれまでの審議経過を報告することが主な内容です。

### 人間関係を豊かにしてこそ社協

冒頭、事務局の杉崎が、第二次ボランティア活動推進計画の策定にあたり、想定した支援策が、有効か否かを検証するため、市民アンケート

を実施した旨を報告。大野部会長から低い回答率（二十三割）に対する懸念（信憑性に対する）が示されました。これについては、集計結果を分析する際、回答率を十分に勘案するよう指示を受けています。続いて、ボランティア

団体等に対する助成の仕組みを変更すべく、助成要綱の一部改正も検討中であることを報告。主な改正点は①助成申請日を通年とする

こと②完全に事業費補助方式とすること③上限額を設けず事業内容に応じて助成額を決定すること—などです。

### 健全な批判精神で“社協のあり様”について語る大野部会長

これに対し、大野部会長から「最初に、逼迫した財政事情のもと、従来の方法では助成金を配分することは

できないとの説明があった。しかし、事業に対し助成するということになる

と、長きに亘り社会に貢献してきた活動団体を否定することになりはしないか。」と、ややもするとこれに否定的な見解が示されました。「どうも今の三浦市社協は、受け身のような気がする。市民によるクリエイティブ活動を支援しようという気概が感じられない。市民活動に一番近いところに「居る」のは社協のはず。

人間関係を豊かにするような活動をしてほしい—と手厳しい言葉が口を衝く場面もありました。事業型社協としての一面は評価に値するが、面倒なことには目を瞑り、地域の中に深く分け入り、住民とともに社会問題を解決していこうという気概に欠ける—というので

まさに大野節です。予定調和を好まない大野部会長らしい一言です。単に承認のための部会なら開かないほうが良いというわけで

す。これによって、議論は一気に白熱しました。

「神奈川県でも補助金はカットの方向で進んでいる。事業費補助方式に関しては、申請書の提出によって、当該活動をチェックする仕組みが確立できるといいます。その際には、当該団体と社協間にやり取りが生まれるだろう。そうした機会を大切する必要がある（片岡部会員「助成金の上限額を設けないというのはいかがなものか。社協は予算に基づいて活動する団体。予算を超える申請に対してどのように対処するのか。中途半端な支援に終わりはしないか心配だ（菊池部会員）」といった意見が聞かれました。

これに、オブザーバーとして出席していた佐藤常務が「むしろ、地域にある生活問題を見て見ぬふりがでさずに困っている。社協が事業型社協としての道を歩んでいるのはその結果だ。一方で、三浦市を覆う閉塞感に諦観に近い感情を抱い





議論が白熱した活動評価促進部会の様子

ているのも事実だ。地域経済の低迷は想像以上に深刻。三浦市からの補助金も減少し続けている。今回の措置は、まさに苦肉の策である。公共性が高く、社会に貢献している活動にこそ適正に助成したい。そもそも『本会からの助成金がないのなら活動しない』などという団体は皆無だと信じている」と応えました。また「ボランティア活動促進部会でも、新しい補助方式は、既存団体のこれまでの活動を否定することになるのではないか」という議論はあった。一方で、公金を支出するのにその使途が不明瞭であっていいはずがない」との意見も聞かれた。そこ

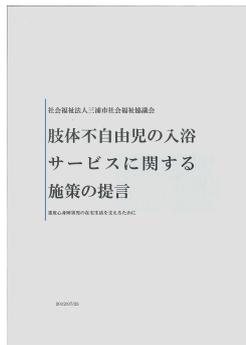
で、①先駆的②創造的③公共的という三つの要件を満たす活動に助成するとしていた要綱案を改め、そのいずれかに該当する活動に助成すると改めた経緯がある。既存活動の否定にはあたらない」との見解を示しました。

「閉塞感ということでは、少なからずどの地域でも感じているのではないか。こうした時代だからこそ、益々小地域での活動が重要性を増す。一つの方策は、日常生活圏域での地域福祉活動計画の策定である。計画策定という言葉に躊躇いを感じるのならば、せめて目標を共有することでもいい。自分たちの住む町にどのような生活問題があり、それをどのように解決しようというのか「目標」を持つのだ。」と菊池部会長。これに大野部会長が続きます。「それにしても、社会福祉協議会には、住民と協働する体制をつくってほしい。『町が死んでいく』との見方もあるようだが、こういう時に何かを成すのは『人』である。お金がなくてもできる活動はある。受

け身ではなく、住民とともに課題を解決する姿勢を貫くべきだろう。」そして「もう一つ確認したい。この助成を決定するのは誰なのか。」と質しました。

「これまでは、ボランティアアセンター運営委員会において事務局案を承認していただいていたが、今後は、ボランティア活動促進部会というより開かれた場で、ご審議いただきたいと考えています。」との事務局答弁に「それは大いに結構である」と賛同の意を得ました。

### 行政に政策提言



▼三浦市においては未整備な状況にある十五歳未満の肢体不自由児に対する入浴サービスの施策化に関し、具体的な政策提言をおこなったことを報告しました。これについては、ボランティア連絡協議会の賛同が得られそうなこと、そして、入浴設備

を持つ医療法人が協力に名乗りをあげてくれていることなど、市民参加とネットワークの力によって『民主導』で当面のニーズに対応していきたい旨も併せて報告しました。



▼平成二十六年以降の動向が注目される「三浦市高齢者ふれあいセンター」ですが、行財政改革の一環として、民間への売却も視野に、そのあり方が検討されています。三浦市の逼迫した財政事情を参酌しつつも、これを三浦市民の財産として残す方法はないのか、同施設の指定管理を受ける立場から三浦市に対して政策提言をおこなっていききたいと考えている旨を報告しました。高齢者ふれあいセンターは、高齢者の心身の健康の保持を図る事業及び高齢者の生きがいづくり事業を展開する施設として三浦市が設置し、地

方自治法に基づいて本会が指定管理する施設です。この歴史ある施設を本市の「新しい公共施設」として再生させるため、その利活用に関し、広く市民にアイデアを募集したことを報告しました。



▼平成二十年三月二十八日以降「成年後見制度利用支援事業の対象者の拡大等」が図られたことを受け、三浦市でも成年後見制度利用支援事業及び市長申立てに関する要綱を法の趣旨に適ったものとするよう、その改正を求めたことを報告しました。

### 編集後記

▼大野部会長の迫力には度肝を抜かれました(杉崎) ▼予定調和反対。向上会議はこうでなきゃ(佐藤) ▼課題山積。一つずつ確実に片付けないとイケません(出口) ▼次回部会から本格的な現行計画の評価に入ります。忙しくなるな(長塚) ▼絶好調(高井)

福祉のまちづくり推進部会が、十月二十四日に開催されます。